

熱中症による災害事例

災害発生状況

農業用ビニールハウスの補強工事で、屋外で金物加工、コーキング及び補強取付作業を行っていた被災者が熱中症に罹患した。被災者は8時から作業を開始し、14時40分頃に重症化した状態で発見され、同日死亡した。当日の天気は晴れで、県内は猛暑日であった。

原因

- ・ WBGT 値（暑さ指数）が基準値を超えた熱中症のリスクが高い作業環境であったこと。
- ・ 被災者の水分及び塩分の摂取量が熱中症を防止するのに十分な量ではなかったこと。
- ・ 午前中に被災者は体調不良であったものの、昼休憩後、引続き作業を行ったこと。
- ・ 熱中症予防管理者が選任されておらず、作業管理、健康管理、労働衛生教育など熱中症予防対策が適切に行われていなかったこと。

対策

- ・ WBGT 値の基準を超える場合、簡易な屋根、ミストシャワーの設置などにより WBGT 値の低減対策を行うこと。
- ・ のどの渇きの有無にかかわらず、定期的に水分及び塩分を摂取すること。また、管理者は作業員の摂取状況の把握、管理を行うこと。
- ・ 作業前日及び当日の作業員の健康状況等を確認し、健康状況に異常等がある場合は作業の中止及び病院への搬送等の措置を講じること。

